# 第 2 回やくの高原活性化あり方検討会　議事録

開催日時:2024 年 10 月 31 日　14 時～15 時 30 分
開催場所:福知山市役所　夜久野支所
出席者:下表のとおり

**委員**

| 氏名 | 所属 |
|---|---|
| 日和　英之 | 上夜久野自治会長会代表 |
| 足立　静雄 | 中夜久野自治会長会代表 |
| 上田　博康 | 下夜久野自治会長会代表 |
| 小田垣　裕一 | 夜久野みらいまちづくり協議会 |
| 衣川　伸二 | 夜久野みらいまちづくり協議会 |
| 衣川　裕次 | 夜久野みらいまちづくり協議会 |
| 木村　昭興 | 福知山公立大学　教授 |
| 足立　聖忠 | 福知山観光協会　副会長 |
| 坪倉　康孝 | 森の京都DMO　地域開発部長兼ゼネラルプロデューサー |
| 村尾　俊道 | WILLER　TRAINS株式会社　沿線交通リデザインプロジェクトチーム<br>（元京都府交通基盤整備推進監<br>NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾　理事長） |
| 泉　真吾 | 京都銀行　公務・地域連携部　観光・地域活性化室長 |
| 居合　真志 | 市民公募委員 |
| 稲垣　江利子 | 市民公募委員 |
| 衣川　泰広 | 市民公募委員 |
| 松崎　沙弥加 | 市民公募委員 |

**オブザーバー**

| 氏名 | 所属 |
|---|---|
| 安井　茂信 | 福知山河川国道事務所　総括保全対策官 |

**福知山市**

| 氏名 | 所属 |
|---|---|
| 山本　美幸 | 福知山市地域振興部長 |
| 西野　肇 | 福知山市市長公室地域振興政策監 |
| 中島　美香 | 福知山市地域振興部夜久野支所長 |
| 井上　智行 | 福知山市地域振興部夜久野支所地域振興係長 |

**京都総研コンサルティング**

| 氏名 | 所属 |
|---|---|
| 安部　孝幸 | コンサルティング事業部　地域戦略グループ　部長 |
| 山岡　佳祐 | コンサルティング事業部　地域戦略グループ　マネージャー |

■当日の内容について

開会挨拶ならびに福知山市より京都総研コンサルティングを紹介。

京都総研コンサルティングより、やくの高原活性化検討のたたき台となる活用プラン案について説明後、木村委員長の進行の下、質疑応答ならびに意見交換を行った。

■質疑応答

＜委員＞

・集客圏域について、資料 18 頁の G 社からのコメントをみると、ビジネス目線では「やくの高原」は遠いという意見だと思うが、集客圏域の分析については効率を重視されたものであるのか。

＜京都総研コンサルティング＞

・G 社は農作物の配送をイメージしたうえで遠いとのコメントである。集客や賑わいという観点では必ずしも「やくの高原」のアクセスが悪いという意味ではない。

・客観的に事業者からの意見を聞くと、集客施設としてのポテンシャル・評価があったのは 1 社であり、そのほかは集客というよりは、生産拠点を足掛かりにして人を呼び込めないかとの意見があった。

・集客圏域は地元住民による活用の観点で 30 分圏内や 60 分圏内、集客するとなると 2 時間圏内が一つのターゲットになるとみているが、この集客圏域は実施される事業によっても異なってくる。

＜委員＞

・資料 5 頁について、流動人口はどの位最新のデータであるのか。

＜京都総研コンサルティング＞

・流動人口は、実数ではなく時系列の変化をみるためのデータととらえている。

・資料作成時における直近データは、1 年前の 2023 年 10 月のデータとなっている。休日はこれまでもう少し多い時期があったのに対して、コロナ禍後も回復していない。今の現状を比較して、トレンドを見るために作成している。

＜委員＞

・資料 15 頁の補足ではあるが、観光入込客数について京丹波町が多いのは、「道の駅　味夢の里」の影響が大きいので、割り引いてみる必要がある。同様に南丹市も道の駅の影響を受けている。

・1 人あたり観光消費額の京丹後市、宮津市、伊根町が高いのは宿泊施設があるためであり、観光入込客数の拡大ならびに観光消費単価の引き上げの表現は、グラフの読み取り方として異なる方向になる可能性がある。

＜委員＞
・資料 7 頁の農産物等の特産品について、生産者の高齢化が進み、後継者問題があるなかでも、7 頁記載の地域資源を推していくべきという意味か。
＜京都総研コンサルティング＞
・資料 7 頁については、事業者サウンディングのためにやくの高原のポテンシャルを説明するための資料として作成している。

＜委員長＞
・資料 15 頁までの資料は、事業者サウンディングのために作成されたものである。やくの高原の活性化に向けた事業者からの意見は 16 頁以降に記載されている。

＜委員＞
・サウンディング結果における事業者意見は的を射ている。唯一、D 社は前向きな意見であるが、「プライスレスな夜久野の資源にしっかりと価値を付けていく」ことについて、どのようなイメージをされたものなのか、具体的に教えていただきたい。
＜京都総研コンサルティング＞
・D 社からはプライスレス、別の言い方でやくの高原のナンバーワン、オンリーワンは何かを聞かれている。地域の人が気づいていないようなところに焦点をあててビジネスをされている。
・プライスレスとは、人工物はお金をかければつくれるが陳腐化する。景観や食文化もあわせて人工物が何もない場所がプライスレスであり、欧米人はこの部分により価値を見出している。

＜委員＞
・サウンディング事業者の概要、また現地視察されたうえでの意見なのか、イメージでの意見なのか、得意分野の事業など、可能な範囲で教えていただきたい。
＜京都総研コンサルティング＞
・実際に現地視察いただいたのは A 社、D 社である。C 社は過去に視察いただいている。
・基本的には大手で事業者に活路を見出している。F 社は大手企業。
・A 社は本業は別の事業であるが、副業で飲食もやっている事業者とともに視察されている。新規ビジネスを始めるところで視察に来られた。
・B 社と C 社は地域資源を掘り起こし、ノウハウ提供をしながらそのエリアにあった事業者を呼び込めるビジネスモデル。自ら運営するだけでなく、事業者をつなぎあわせて新たな法人を立ち上げたりするのを支援している。
・D 社は全国でアウトドア事業を展開している事業者。遊休地の再生実績が豊富である。条件が不利な場所でも、プライスレスな価値を地域とともに見出していきたいとの考えを

持っておられる。
・E 社は、現時点では採算性まで踏み込んでの調査はこれからである。

＜委員長＞
・ここからは、各委員に付箋とペンをお渡しするので、実現性に関わらず各委員が考える理想的な活用や事業イメージのほか、批判的な意見も含めて書き出していただきたい。

■各委員による付箋への書き出し
　委員長により各委員からの付箋について、やりたいこと、施設について、雇用、その他の 4 つに大きく分類後、フィードバックを実施。

＜委員長＞
・各委員の意見をふまえると、「施設を充実させてほしい」との意見が多い。
・サウンディング結果はあくまで、事業者がやくの高原で事業をするとしたらこのようなイメージとの意見であり、具体的にはこれから詰めていかないといけない。
今回の資料で示した 4 つのアイデアと付箋の意見は大きく異ならないように思われる。
・住民アンケートのなかでは、野菜が美味しい、星が綺麗などの声もあった。
・各委員で活性化に対する考えやイメージが異なっている。今回会議ですべて決めるものではないが、「やくの高原」活性化に求めるものや活用イメージを突き詰めていく必要がある。
・投資したものの 3 年、5 年、10 年で事業が終わってしまっては意味がない。
・今回は各委員からの意見を吸い上げたうえで、意見に基づき具現化するためにはどうするのか、市としてできるのか、市がすべきなのか地域がすべきなのか、誰がすべきなのか、また、民間事業者を誘致して人が集まることが地域の求めるニーズなのかなど、中長期ビジョンに立って、本当の活性化は何なのかを考えていかなければならない。
・全 5 回ですべての意見を出すのは難しいが、何がしたいかどうあるべきかの方向性を決めるのはやる気があればできる。
・どれだけ投資費用がかかり、どのような事業者を呼ぶかについては後から決まってくる話である。まずは、各委員の考え方をまとめないといけないと思い、今回の手法を取らせていただいた。

＜委員＞
・「ファームガーデンやくの」の施設群をどのようにしていくのかという視点で考えていたが、「やくの高原」の活性化からスタートとすると、概念が分からなくなった。
＜委員長＞
・「やくの高原活性化のあり方検討会」なので、各委員の「やくの高原」に対するイメージは何なのか整理する必要があった。今回の会議で各委員のイメージをすべて書き出せたとす

れば、この意見に基づき、実現できるかどうかの案をつくりながら、次回以降の会議で検討していきたい。

＜委員＞
・各委員としてプライスレスやナンバーワンを考え方の核にしてイメージされていたと思うが、言葉にするのがなかなか難しいと思うので、木村委員長、京都銀行がファシリテートして、引き出して言語化してほしい。
・福知山市のなかで「やくの高原」にしかないもの、市外も含めてこのエリアにしかないものある。マニアのなかでは日本一というものもある。そこを整理しながらファシリテートが必要。
＜委員長＞
・委員の意見もふまえて、今後検討していく。次回は各委員の意見を集約しながら批判的な視点も入れて進めていく。

＜委員＞
・成功体験や失敗事例について紹介いただきたい（都市部から車で 1 時間～2 時間圏内）。
＜京都総研コンサルティング＞
・成功事例、失敗事例を紹介したうえで、第 3 回で深く議論できるようにする。

＜委員＞
・成功している地域は、各地域にキーパーソンがいるはずなので、人についても見ていった方が良いと思う。

＜委員＞
・100%みんなが幸せという例はないと思うので、光と影の両面を含めて紹介いただきたい。

＜委員＞
・地域住民にとって、何らかのメリットがあるという軸をぶれないようにしてほしい。
＜委員長＞
・そのためには広く住民からの意見を吸い上げる必要がある。その方法については工夫・検討していく。

＜委員＞
・配布資料を事前に予習したいので、事前にいただけるのであればお願いしたい。遅くとも 1 週間前までにいただけるとありがたい。
＜委員長＞
・今回、京都総研コンサルティングは短時間でかなりまとめあげていただいており、現在も

サウンディングを継続していただいている。
・本会議の委員だけでなく、広く住民の意見を聞きながら方向性を定めていきたいと考えている。次回の資料については、1 週間前までに住民意見を吸い上げてまとめていく。

＜委員＞
・夜久野地域に住まれている方の背景や、市外の事業者サウンディング調査（どういった事業者が来たら面白いか）を経て、事業者が進出した時に受け入れられるためには、将来の夜久野地域における若年人口の推移などの情報もあった方が良いのではないか。
＜委員長＞
・具体的なデータを出すのは相当難しいと思われる。
＜委員＞
・肌感覚的な資料でも良い。
＜京都総研コンサルティング＞
・地元住民に意見交換させていただいた方が良いのであれば、そのように対応する。

＜委員＞
・17 頁の「産直・飲食事業、サウナ事業」ー「収支・経済性」について、若者主導で運営する形態が望ましいとあるので、地域に若者がこれだけいて、数人話すだけでもたくさん意見が出てくると思う。
・スポット的でも良いので、地域の利害関係者へのヒアリング内容も入れたほうが方向性を定めていくうえでの精度も上がると思う。

■その他
・事務局より、第 3 回会議（11 月 28 日（木）14 時より夜久野支所にて開催）の案内。